

津山城百聞録

今回は津山城天守の歴史的な位置付けなどについて説明しました。今回は津山城の天守に使用された瓦について検討します。

津山城に使用された瓦は、鬼瓦・鯨瓦など数多くの種類がありますが、発掘調査で大量に出土する瓦は、最も大量に使用された平瓦・軒平瓦・丸瓦・軒丸瓦の4種類の瓦です。今回は、これらの瓦の中で文様により比較検討が可能な軒瓦に注目してみます。

軒瓦はその名のとおりに屋根の軒先を飾る瓦で、その文様は鎌倉時代以降、軒丸瓦は三巴文、軒平瓦は唐草文が一般的です(写真1)。軒丸瓦については、一般的に巴の頭が小さくて尻尾が長く、巴の周囲の点(珠文といいます)が小さく珠文同士の間隔が広いほど古いとされており、これによりおおよその瓦の新古関係が判定できます。



備中櫓に葺かれている軒瓦(写真1)

さて、それでは津山城の天守にはどのような文様の瓦が葺かれていたのでしょうか？天守については周辺の断片的な発掘調査しか実施していませんが、それらの調査での出土品をみると、軒丸瓦についてはそのすべてが三巴文であり、天守にもこの三巴文の軒丸瓦が葺かれていたことは確実です。

また、津山城跡で出土する軒丸瓦の大きさは、直径が15センチメートル程度のものが圧倒的多数を占めています。写真1の備中櫓の軒丸瓦も直径は15センチメートル程度のものです。ところが、天守周辺の調査では直径が20センチメートルもある大型の軒丸瓦が出土します(写真2左)。この巨大な軒丸瓦は天守周辺以外では出土しないため、恐らくこの軒丸瓦が天守に使用されたものと思われます。



天守の軒丸瓦(左)と通常の軒丸瓦(右)
(写真2)

47 津山城の天守2 天守の瓦

津山城の天守が巨大な木造建造物であることは前回述べましたが、その屋根に葺かれた瓦も他の瓦とは明らかに異なる大型のものが使用されたようです。ちなみに、写真2の左側の瓦は前述の特徴から恐らく江戸時代前期、天守の創建当時に使用された瓦であると思われます。一方、ほぼ同様の大きさで巴の頭が大きく尻尾のかなり短い江戸時代末に近い時代の軒丸瓦も出土しており、これらは江戸時代を通じて天守の屋根が何度か補修されたことを物語っています。

なお、今回は省略しましたが、この軒丸瓦とセットになる軒平瓦も通常のものよりもはるかに大きく、その文様は中心に「桐の葉」を持つ唐草文です。

今年の冬は雪の日が多く、衆楽園の雪景色を何度も見ることができました。桜や新緑の季節もいですが、墨絵風に映る雪の衆楽園も気に入っています。しかし、この寒さには参りますね。久々にできた足のしもやけがかゆい。(郁)

寒いと運動不足になりがちです。暇を見つけてはアイスランド津山ヘスケートをしに行っています。「氷の上にいるなんて寒いでしょう？」と言われますが、どうこいどっこい。体も温まり、冷たい風も気持ちいいんですよ。なかなかやせませんが。(e)

今年によく雪が降りますね。ある日、慣れない雪かきをした後子どもと雪だるまを作りました。その夜、明日の天気が気になったので、子どもといっしょに天気予報を見ていると、上の子が一言、「あしたは雪だるまが降るな」。父「...。作らなくていいかな」。(ひ)

編集後記

ひとの動き

(1月1日現在)

人口	90,135人	(前月比 7)
男	42,953人	(同 12)
女	47,182人	(同 +5)
世帯数	34,862世帯	(同 28)

12月中の異動数

出生	65人	死亡	66人
転入	211人	転出	217人

2月

2004

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

